

# 社員の 独立問題を考える

ビートたけしさんの独立と、会社と所属タレントの対立が話題になりました。社員の独立で起こる問題の傾向と対策を考えましょう。

## はじめに

タレント・ビートたけしさんが自らの会社を退職し、あらたに会社を興し独立したことは世間の関心を集めました。師弟関係にある所属タレントが元の会社社長を名指しで批判したことで、内紛の行方が注目されています。

一般企業においても「社員の独立」や「経営陣と社員の対立」は起こりうる課題であり、特に社員の独立は経営に大きなインパクトを与えます。

社員の独立はなぜ起こるか、事態が悪化しないための対策としてどのようなものがあるかを考えましょう。

## 「分け前」で揉めるという典型

今回のビートたけしさんの事件の場合、独立騒動の一端に金銭分配方法への不満があったと報じられています。

「分け前（給与）に対する不満」は最も典型的な独立のきっかけですが、「会社が儲からなかったので来期は給料を下げる」と言っても、なかなか社員の納得が得られないように、金銭の分配の妥当性について理屈で諭すことはできないものです。

社員の金銭的不満はむしろ組織内の同僚や同業他社との比較によって起こりがちです。

## 相手の「見えにくい言い分」

金銭の分配についての意見の不一致以外にも、会社と社員が独立を巡って対立する場合、感情的な対立が深刻化の原因になります。

下の図に示すように、お互いに理解していない領域があるほど、独立問題を深刻にしていくという傾向が見られます。

## 会社と社員の不満のマトリクス

		独立する社員	
		意識している	意識していない
会社	意識している	<ul style="list-style-type: none"><li>金銭の分配</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>全体の業績への責任がない</li><li>借入の個人保証がない気楽さ</li><li>集客のありがたみを理解していない</li><li>経営陣に対する尊敬が足りない</li></ul>
	意識していない	<ul style="list-style-type: none"><li>高級車に乗っている</li><li>優雅な暮らしをしている</li><li>会社を私物化している</li><li>貢献に対する評価が足りない</li><li>パワハラを感じている</li><li>プライベートに変化があった</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>協働により生まれている価値がある</li><li>お互いの弱みを補い合っている状況</li></ul>

会社側（経営者）は、表面的な生活レベルが嫉妬の対象になりやすいと意識しなければなりません。

また、結婚や自宅購入など、社員のライフステージの変化に合わせた経済的ケアを考えるべきでしょう。

逆に社員側には、経営者が長年雇用を守ってきたことに対する感謝を「後輩・後継者の育成」や「仕組みづくり」などで示してほしいと思っていると意識してほしいところです。

敵対的独立を防ぐためには、お互いの理解を深めるための対話と時間共有が大切でしょう。

## いい面にも目を向ける

また、先の図の右下に「会社と独立を考える社員がお互いに意識していない部分」として、一緒に働くことで生まれている価値について触れています。

敵対的独立以外に「社内独立」や「業務提携」「役員就任」などの選択肢がないか、ポジティブな関係構築のための対話をする姿勢がお互いにあると良いかもしれません。